

## 1. 成績の自己評価

東京の小学生の成績の自己評価は均一に分散しているのが特徴的である。6都市中、成績の自己評価として上位を選択した小学生の比率（「1（上のほう）」＋「2」の％）は、東京が一番低く22.3％であった。続くのは東アジア2都市のソウル29.9％と北京34.8％である。一方で、ヘルシンキ（40.3％）、ロンドン（43.2％）、ワシントンDC（54.9％）で、これら欧米3都市の小学生の自己評価の高さがうかがえる。



- あなたの今の成績は、クラスの中でどのくらいですか。
- あなたは、どのくらいの成績がとれたらいいと思いますか。
- 今の成績は別として、あなたがうんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思いますか。

図1-3-1 成績の自己評価

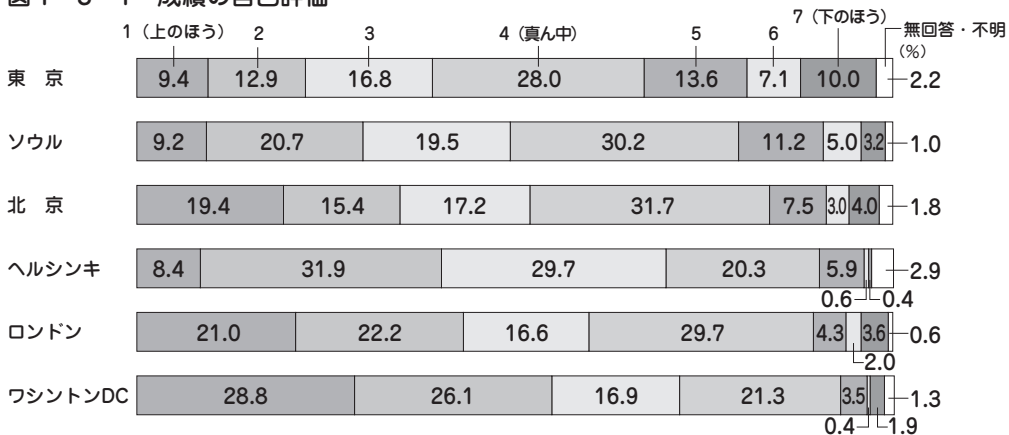


図1-3-2 とりたいと思う成績

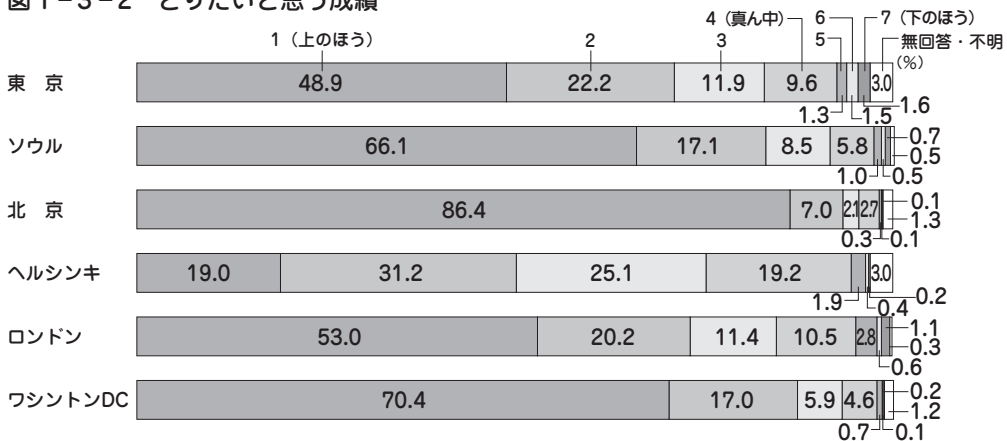
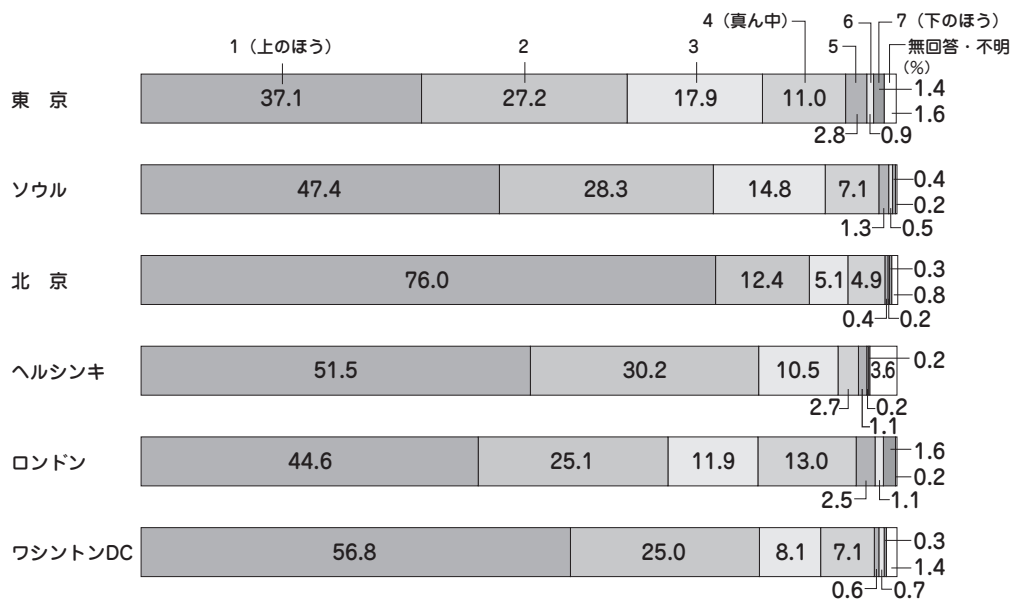


図1-3-3 がんばればとれると思う成績



成績について3つの質問をしてみると、各都市の特徴があらわれた。まず、現在の成績の自己評価(図1-3-1)をみてみると、東京の小学生の回答は、バランスよく上位・中位・下位と分散していることに気づく。ソウルと北京では、東京よりも若干中上位(「2」または「3」)の評価をする比率が高い。欧米3都市では「3」以上の評価が多いが、その中でヘルシンキの「1」の評価の比率が低い(8.4%)ことが際立っている。

とりたいと思う成績(図1-3-2)では、北京の「1」を選んだ比率(86.4%)が高く、ワシントンDC(70.4%)、ソウル(66.1%)、ロンドン(53.0%)、東京(48.9%)の順で続

く。ヘルシンキの比率は19.0%で6都市の中でもっとも低く、学校の成績に対するこだわりの少なさがうかがえる。

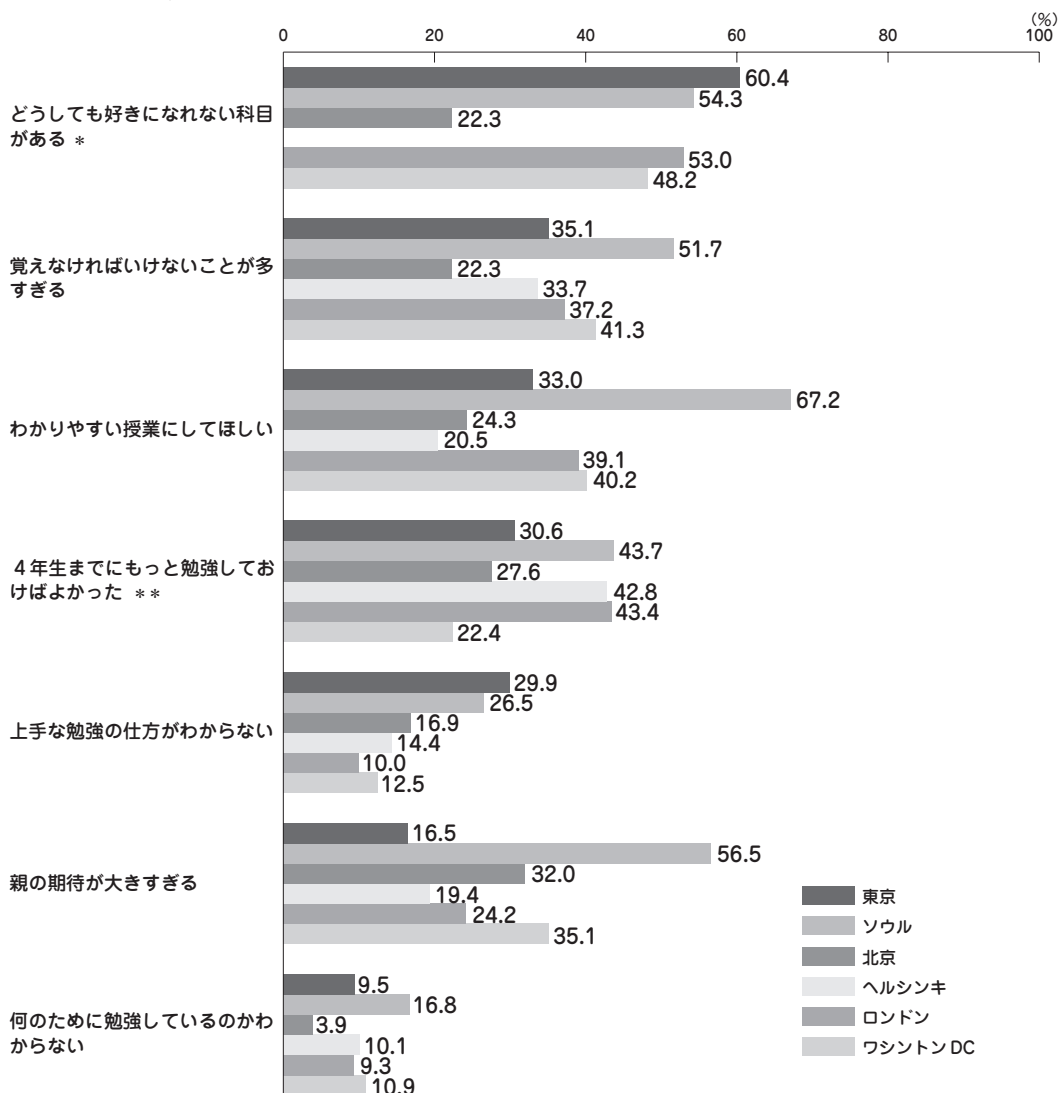
がんばればとれると思う成績(図1-3-3)では、どの都市でも、「1」を選ぶ割合は4割弱以上であるが、その中でも、北京は76.0%と高い数値である。興味深いのはヘルシンキで、学校の成績へのこだわりが少ないものの、半数以上(51.5%)ががんばれば「1」の成績がとれると思うと回答している点である。東京ではがんばればとれると思う成績で「1」を選ぶ比率(37.1%)が一番低く、他都市と比べ東京の小学生は自分がとれる学力に関して控えめに評価する様子が見える。

## 2. 学習上の悩み・学習に対する意欲

ソウルの小学生は学習上の悩み、学習の意欲に関する多くの項目で選択する比率がもっとも高くなっており、多くの悩みを抱えている一方で、学習意欲が高く喜びを感じているといえる。東京の小学生は「どうしても好きになれない科目がある」「上手な勉強の仕方がわからない」を選択する比率が高く、また、「新しいことを知るのが好きだ」を選択する比率がもっとも低くなっている。

**Q** あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。

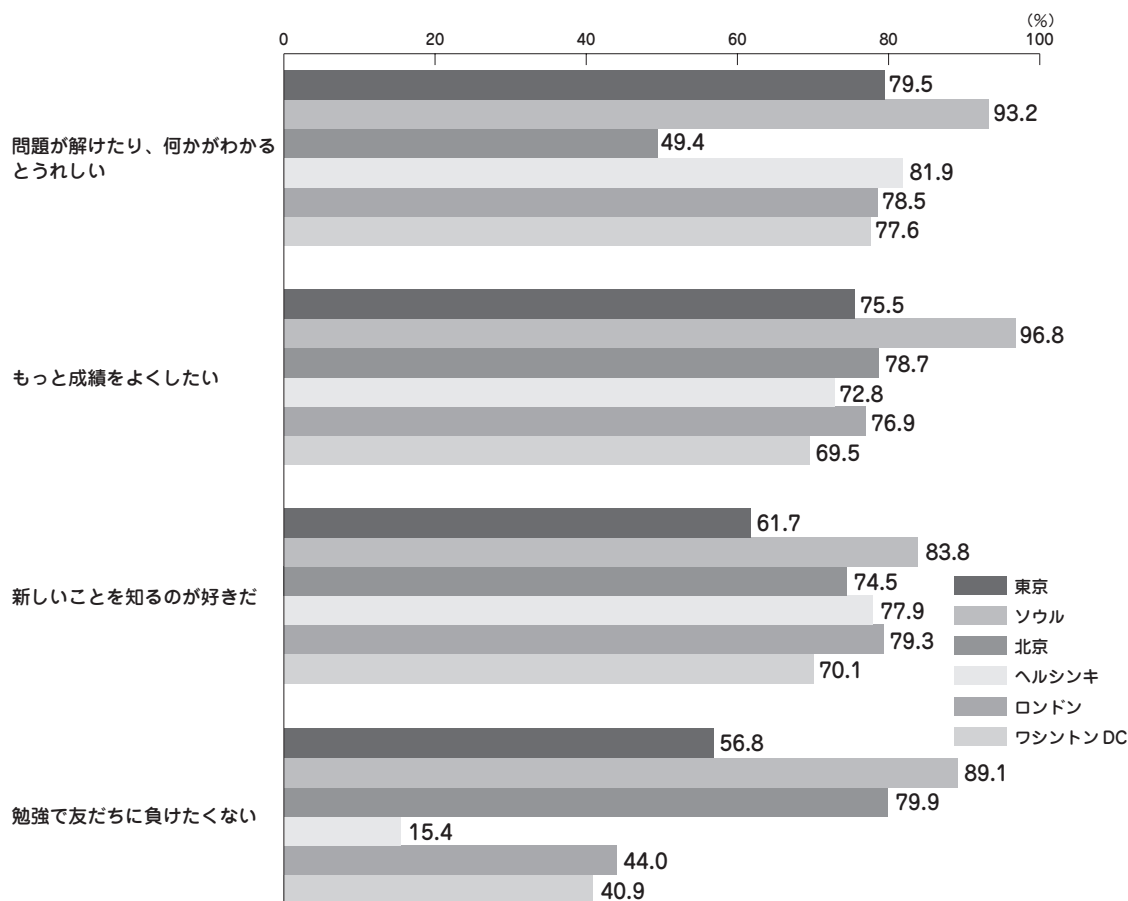
図1-3-4 学習上の悩み



注1) 複数回答。

注2) \*ヘルシンキは該当する質問項目なし。\*\*ヘルシンキは「以前からもっと勉強しておけばよかった」。

図1-3-5 学習に対する意欲



注) 複数回答。

学習に関する悩みをたずねたところ(図1-3-4)、ソウルの小学生の悩みの多さが目立つ。「わかりやすい授業にしてほしい」(67.2%)や「親の期待が大きすぎる」(56.5%)を選択する比率が高い。「覚えなければいけないことが多すぎる」も肯定する比率が高く(51.7%)、学習に関してかなりのプレッシャーを感じている様子が見える。東京が他都市と比較して比率が高いのは「どうしても好きになれない科目がある」(60.4%)と、「上手な勉強の仕方がわからない」(29.9%)である。

悩みの多さに加えて、学習に対する意欲についての4項目でもソウルの比率の高さが際立っている(図1-3-5)。「もっと成績をよくしたい」(96.8%)、「勉強で友だちに負けたくない」(89.1%)という強い上昇志向を持つ

ていると同時に、「問題が解けたり、何かがわかるとうれしい」(93.2%)、「新しいことを知るの好きだ」(83.8%)などの項目での比率の高さから学習についての喜びも強く感じていることがうかがえる。

ヘルシンキの「勉強で友だちに負けたくない」の比率が15.4%で他の都市よりも低い。一方で、「もっと成績をよくしたい」と答える比率は72.8%で、成績を他者と比較してとらえていないことがうかがえる。その他、北京については「問題が解けたり、何かがわかるとうれしい」の比率が低い(49.4%)が、「勉強で友だちに負けたくない」の比率が高い(79.9%)ことから、問題を解けたとき、喜びを感じるよりも競争心が強いことがうかがえる。

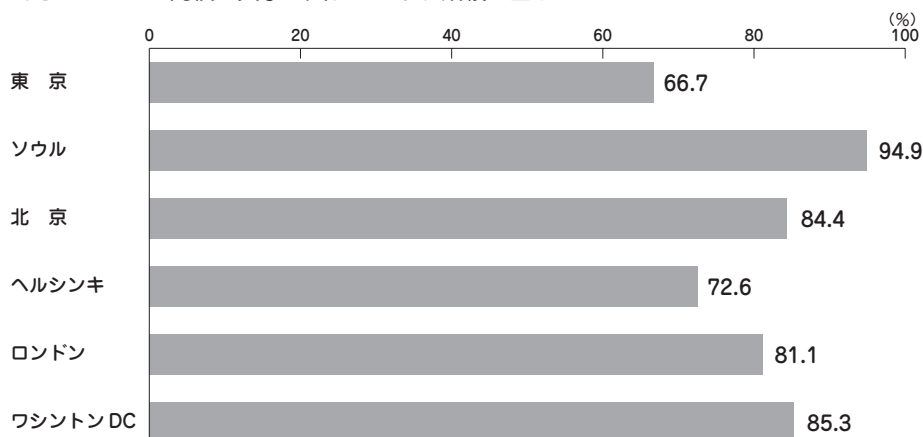
### 3. 学力観

東京の小学生は、進学への厳しさを認識しつつもそのために勉強することが重要であるという意識は他都市と比べ相対的に弱いようである。その一方で、北京の小学生は進学への厳しさと、そのための勉強の重要性を十分認識している様子がうかがえる。

**Q** あなたは、次のように思うことがありますか。

図 1-3-6 学力観

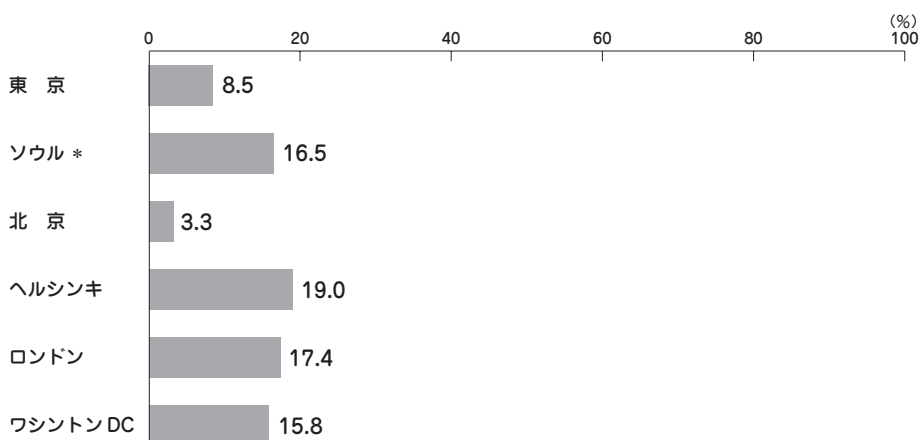
できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい



注1) 複数回答。

注2) ソウルは「できるなら、いい大学に入れるよう成績を上げたい」。

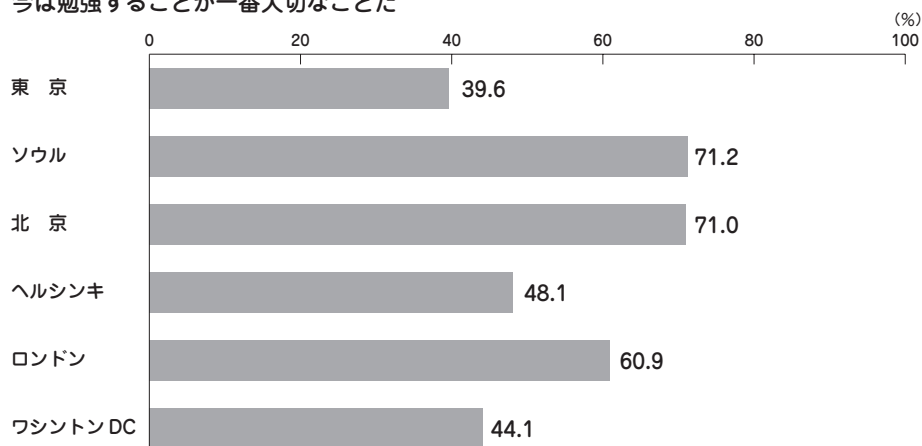
そんなに勉強しなくても、なんとか大学に進学できるだろう



注1) 複数回答。

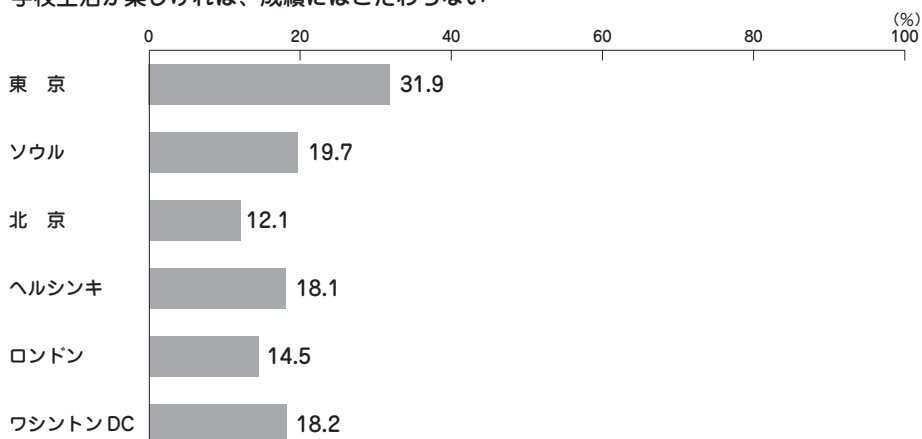
注2) \*ソウルは「一生懸命勉強しなくてもなんとか進学できると思う」。

今は勉強することが一番大切なことだ



注) 複数回答。

学校生活を楽しめれば、成績にはこだわらない



注) 複数回答。

日本でいう「学力」に該当する言葉や意味あいは国によって異なるため、学力観についてたずねる質問項目を翻訳する際に意識を行っていたことに留意が必要である。そのうえで、比較が妥当であると考えられる4項目の結果についてみていきたい(図1-3-6)。まず、東京の小学生66.7%が「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」と思っているが、この比率が他都市との比較で低い(ヘルシンキ72.6%~ソウル94.9%)。東京では「そんなに勉強しなくても、なんとか大学に進学できるだろう」と答える小学生の比率は北京(3.3%)に次いで8.5%と低く、大学進学がシビアであることを比較的強く認識している様子がうかがえる。その一方で、

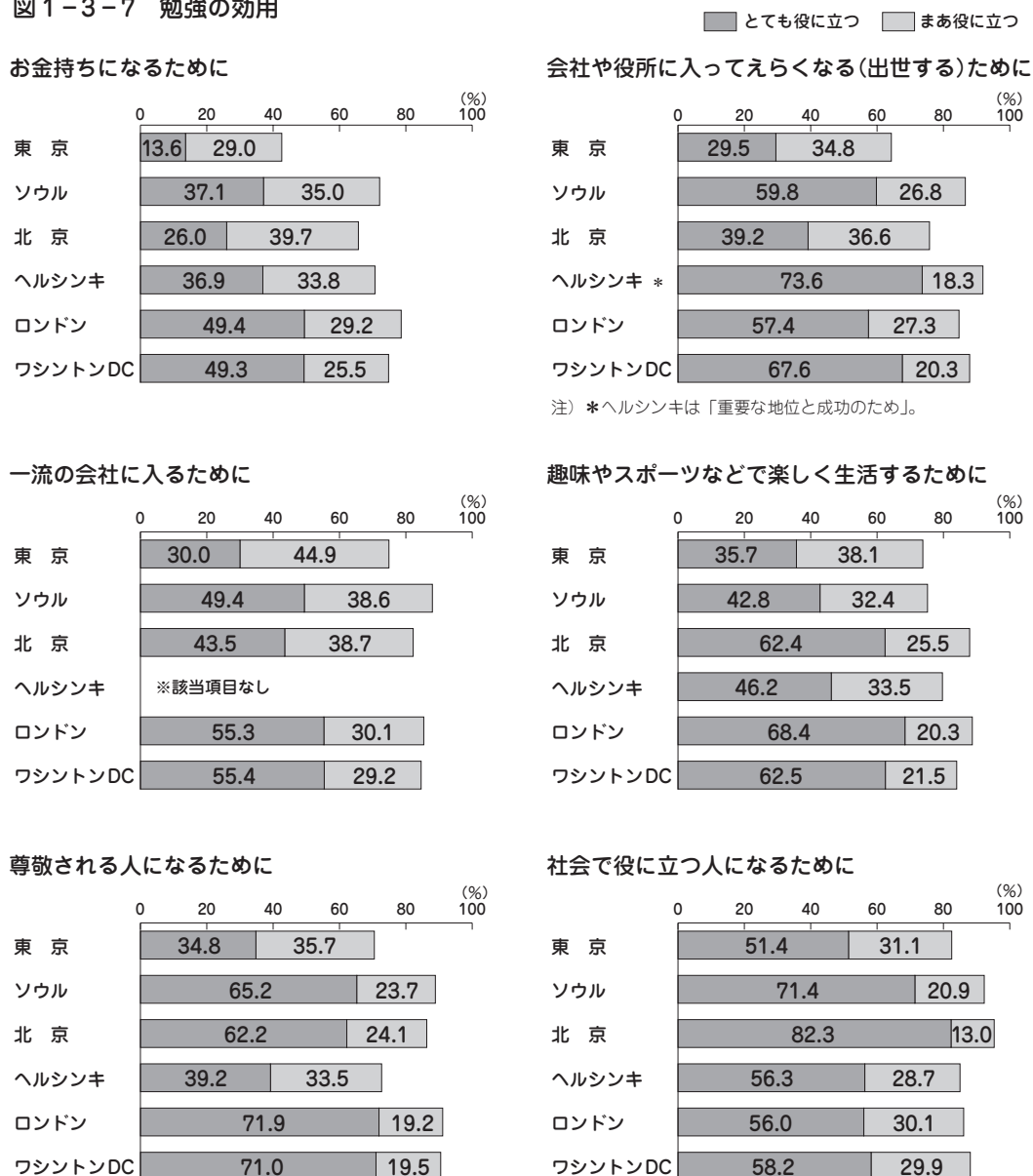
「今は勉強することが一番大切なことだ」については、東京の回答比率がもっとも低い(東京39.6%<他の5都市44.1~71.2%)。それに対して北京では71.0%とソウルに次いで高い。さらに東京では「学校生活を楽しめれば、成績にはこだわらない」と回答した比率はもっとも高く(東京31.9%>他の5都市12.1~19.7%)、北京ではもっとも低くなっている。これらの結果から、他都市との比較において全体的に東京の小学生が進学の厳しさを認識しているが、そのための勉強の必要性を感じる傾向が弱いことがうかがえる。その一方で、北京の小学生は、進学の厳しさとそのために勉強することの必要性を感じている傾向が強い。

## 4. 勉強の効用

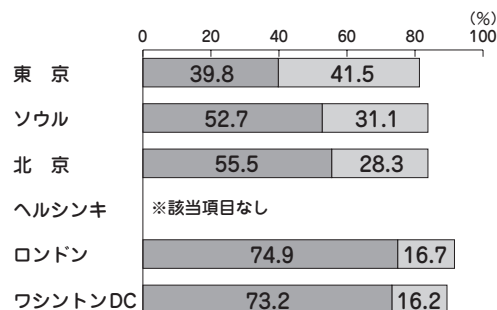
学校の勉強がどのようなことに役に立つと思うかをたずねたところ、ほとんどの項目で「役に立つ」と答えた小学生の比率は東京でもっとも低い。さらに東京で「出世」「お金」「一流企業就職」などの一般的に社会的な成功と考えられる項目について、学校の勉強の効用を肯定する比率の低さが際立っている。

**Q** 学校の勉強は、次のことにどのくらい役立つと思いますか。

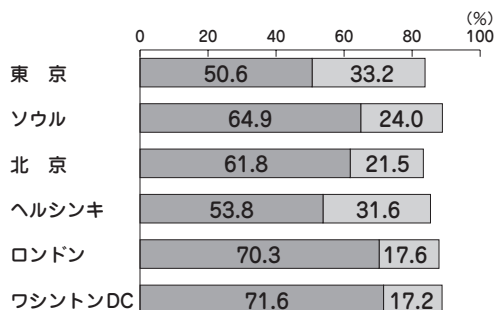
図1-3-7 勉強の効用



心にゆとりがある幸せな生活をするために



よいお父さん、お母さんになるために



全般的に、小学生は学校の勉強がさまざまなことに役に立つと考えているようで、いずれの都市でも、多くの項目について7～8割の小学生が「役に立つ」(「とても役に立つ」+「まあ役に立つ」の%、以下同)と答えている(図1-3-7)。

最大の特徴は、東京はほとんどの項目で、「役に立つ」と答える小学生の比率が他都市の小学生と比べてもっとも低くなっており、学校の勉強の役立ち感が弱いという点である。とくに他都市と差がある項目は「お金持ちになるために」で、東京で「役に立つ」と答える小学生の比率は42.6%でもっとも低く、つづく北京(65.7%)と20ポイント以上、もっとも高いロンドン(78.6%)と36ポイントの差がある。同様に「会社や役所に入っただけで楽になる(出世する)ために」(64.3%)では、次いで低い比率の北京(75.8%)と約12ポイント、もっとも高いヘルシンキ(91.9%)とは約28ポイントの差がある。「一流の会社に入るために」でも、東京は74.9%で唯一8割を下回っている。これらの結果から東京の

小学生は出世、高収入など、通常社会的な成功と考えられるものを得るために、学校の勉強が役に立つと考える傾向が弱いことが読み取れる。

その他、「趣味やスポーツなどで楽しく生活するために」はロンドン(88.7%)とワシントンDC(84.0%)の欧米2都市に加えて、北京(87.9%)で高くなっている。また、「尊敬される人になるために」の項目では、東京(70.5%)とヘルシンキ(72.7%)がロンドン(91.1%)とワシントンDC(90.5%)より20ポイント程度も低い点も特徴的である。

「社会で役に立つ人になるために」「心にゆとりがある幸せな生活をするために」については、やはり東京がもっとも低い比率(東京82.5%<他の5都市85.0～95.3%、東京81.3%<該当項目のないヘルシンキを除く他の4都市83.8～91.6%)となっている。また「よいお父さん、お母さんになるために」は北京に次いで比率が低い。しかし、これらの項目では東京を含まないいずれの都市でも8割を超え、勉強の役立ち感は強いようである。

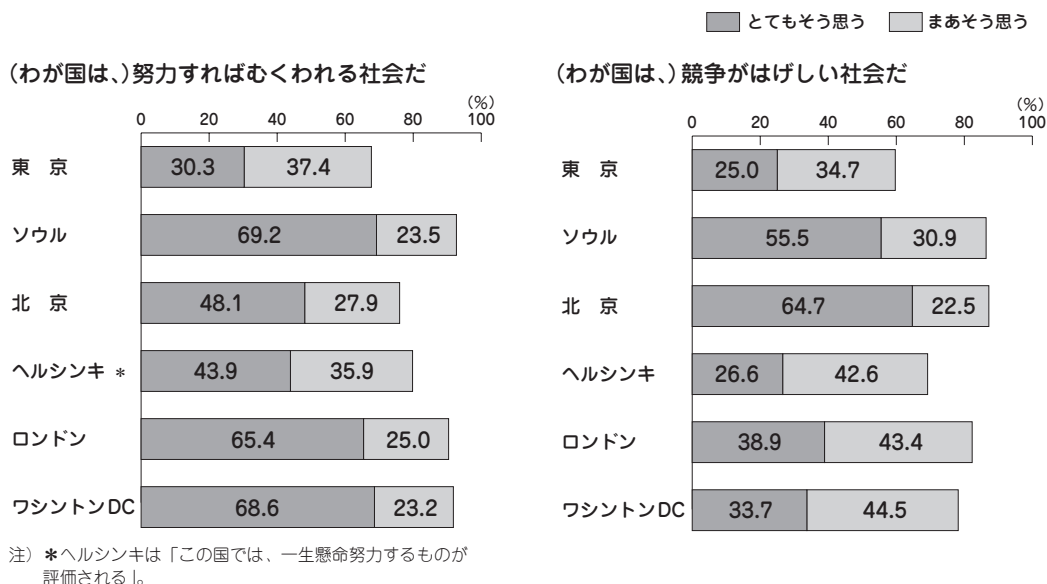


## 5. 社会観・価値観

東京では「いい大学を卒業すると将来、幸せになれる」「将来、一流の会社に入ったり、一流の仕事につきたい」と思う小学生の比率は低く、また「競争がはげしい社会だ」と答える比率も低く、他都市と比較して競争して社会的な成功を手に入れたいという思いはあまり強くないことがうかがえる。

**Q** あなたは、次の意見をどう思いますか。

図1-3-8 社会観

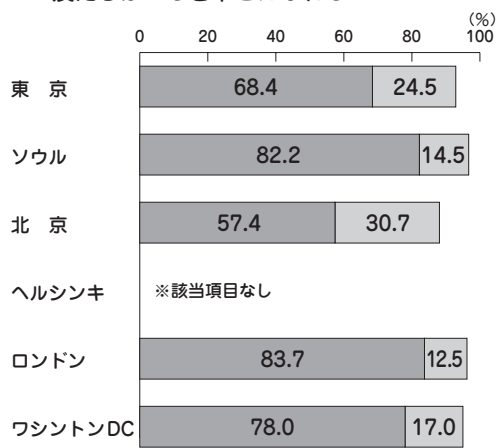


自分の国や社会についての意識に関して、東京の小学生は「努力すればむくわれる社会だ」の肯定率が67.7%で6都市の中でもっとも低い。さらに、「競争がはげしい社会だ」の肯定率も59.7%でもっとも低い。ソウル、ロンドン、ワシントンDCの小学生は社会の競争を認識しつつ(各86.4%、82.3%、78.2%)、

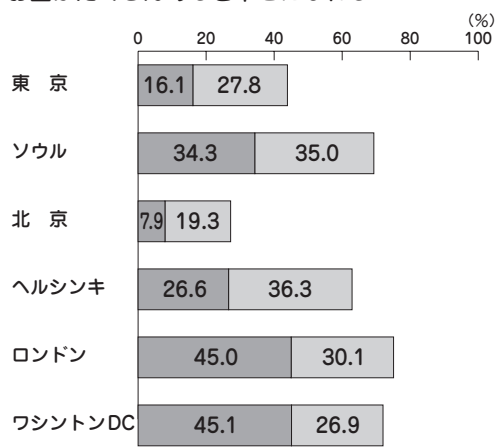
自国が、努力がむくわれる社会でもあると思っている(各92.7%、90.4%、91.8%)。北京では「競争がはげしい社会だ」の肯定率が87.2%と高い一方、「努力すればむくわれる社会だ」の肯定率は76.0%と、相対的に低く、他都市と異なった傾向になっている(図1-3-8)。

図1-3-9 価値観

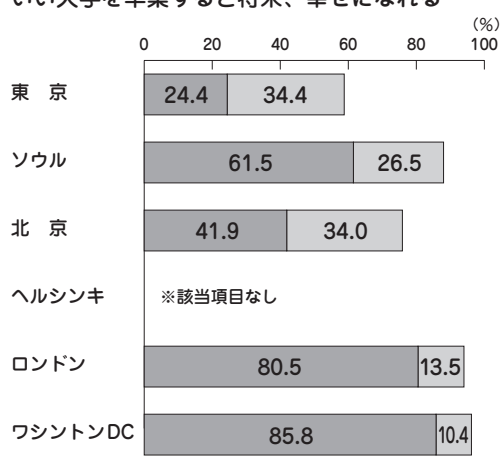
いい友だちがいると幸せになれる



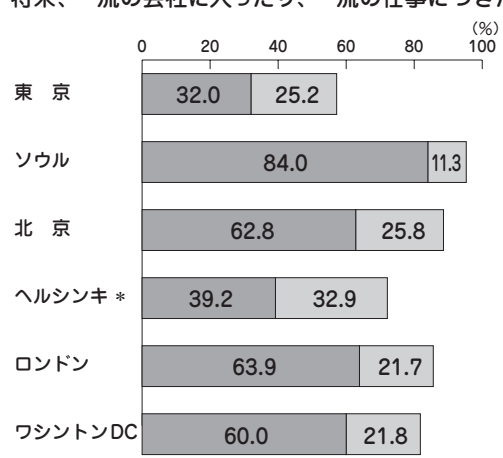
お金がたくさんあると幸せになれる



いい大学を卒業すると将来、幸せになれる



将来、一流の会社に入ったり、一流の仕事につきたい



注) \*ヘルシンキは「将来、大企業で重要な仕事をしたい」。

また、幸せになれる条件についてたずねたところ、「いい友だちがいると幸せになれる」は、いずれの都市でも肯定率（「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の％、以下同）が高い。都市間で差がみられるのは、「お金がたくさんあると幸せになれる」で、北京が27.2%でもっとも低く、それに次いで東京が43.9%である。比率がもっとも高いのはロンドン（75.1%）である。また、「いい大学を卒業すると将来、幸せになれる」では、ロンドンとワシントンDCで9割以上、ソウルと北京

では7～8割台の肯定率があるのに比較して、東京では58.8%と低い。さらに自分の将来について、「将来、一流の会社に入ったり、一流の仕事につきたい」でも東京の小学生は他都市と比較して低くなっている（東京57.2%＜他の5都市72.1～95.3%）。これらのことから、東京の小学生が他都市の小学生との比較において「いい大学」「一流企業」「お金」を人生の中で幸せになる条件や幸せになるための手段としてあまり考えていないことがうかがえる（図1-3-9）。

図 1-3-10 (1) ジェンダー意識 (「女子はそれほど勉強をがんばらなくてもいい」)

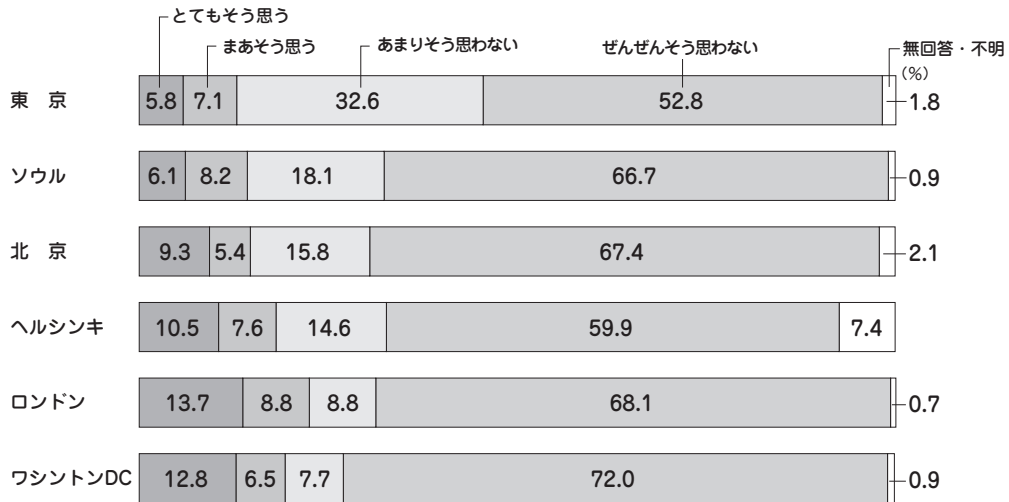
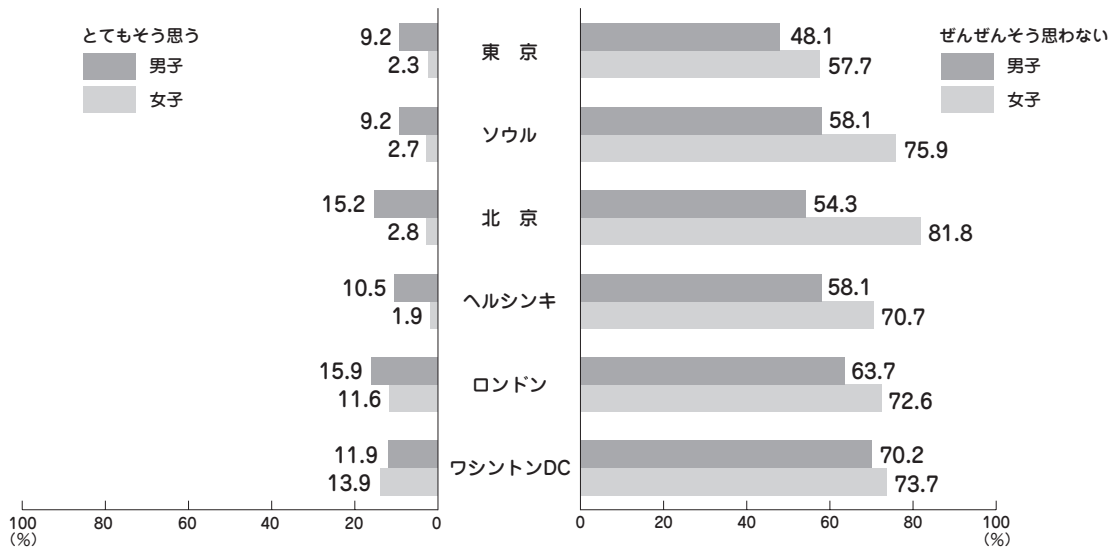


図 1-3-10 (2) ジェンダー意識 (「女子はそれほど勉強をがんばらなくてもいい」) (性別)



社会観・価値観についての質問項目の中で、ジェンダー意識に関する2項目をたずねた。まず「女子はそれほど勉強をがんばらなくてもいい」について、肯定率(「とても思う」の%)はロンドン(13.7%)とワシントンDC(12.8%)で比較的高くなっている。同時にこれらの都市では否定する比率(「ぜんぜんそう思わない」の%)も高い(ロ

ンドン68.1%、ワシントンDC72.0%)。性別のデータをみてみると、「ぜんぜんそう思わない」の比率の男女差はロンドン(女子>男子、8.9ポイント差、以下同)とワシントンDC(3.5ポイント差)で小さい。一方で、ソウル(17.8ポイント差)と北京(27.5ポイント差)では差が大きいことが特徴である(図1-3-10)。

図1-3-11 (1) ジェンダー意識 (「算数は男子のほうが向いている」)

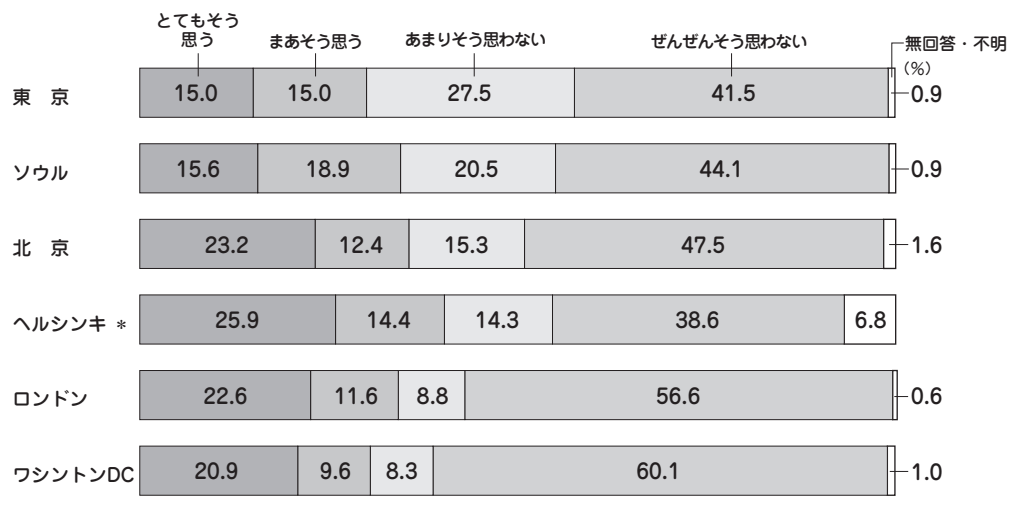
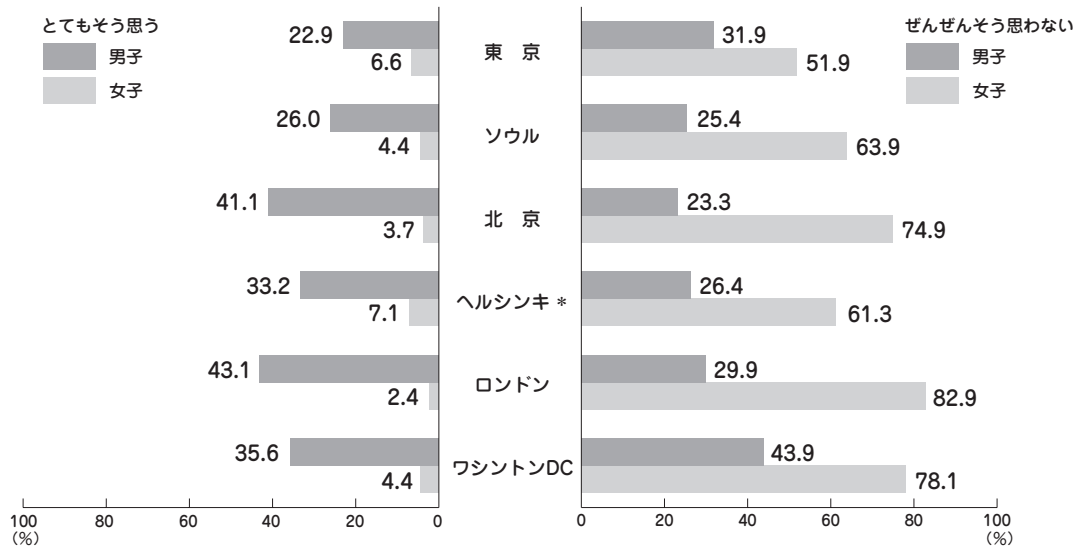


図1-3-11 (2) ジェンダー意識 (「算数は男子のほうが向いている」) (性別)



注) \*ヘルシンキは「男子のほうが算数の成績がよい」。

「算数は男子のほうが向いている」の項目では、ヘルシンキの肯定率 (「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%) が若干高く (40.3%)、一方で「ぜんぜんそう思わない」の比率が38.6%と低くなっており、全体として肯

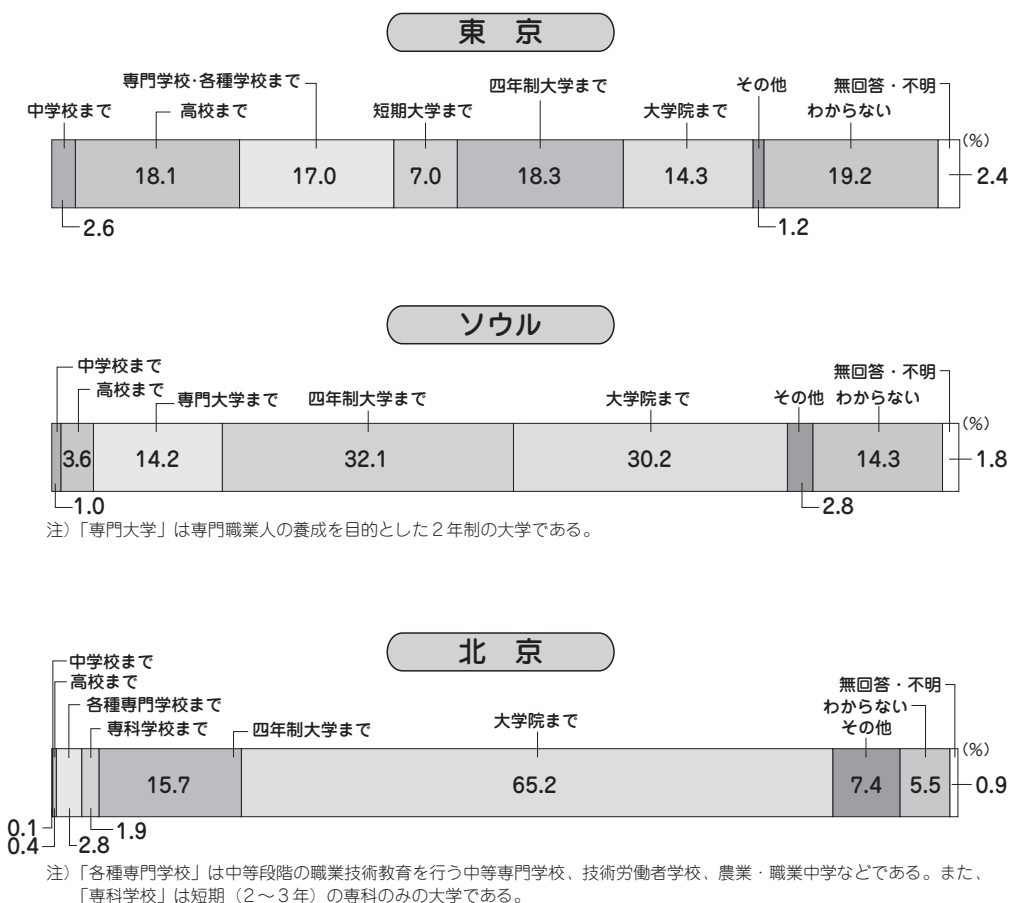
定感が強い傾向がある。性別のデータでは、女子の肯定率が低い。全6都市共通して「女子はそれほど勉強をがんばらなくてもいい」と比べ、男女の差が大きい (図1-3-11)。

## 6. 希望する進学段階

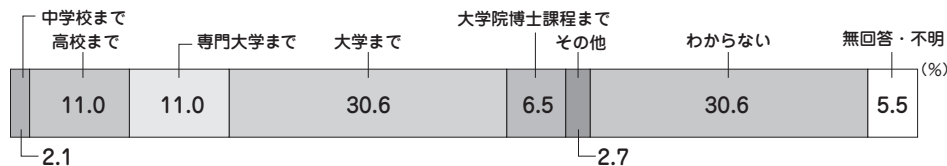
北京の小学生で「大学院まで」の進路を希望する比率は65.2%で、高学歴志向が強く表れている。つづくソウルも「四年制大学まで」または「大学院まで」と答える小学生の比率をあわせると6割を超える。一方、東京では、「高校まで」と答える比率が他の都市と比べて高く、短期大学を含む高等教育機関を希望する小学生の比率も6都市でもっとも低くなっている。

**Q** あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。

図1-3-12 希望する進学段階

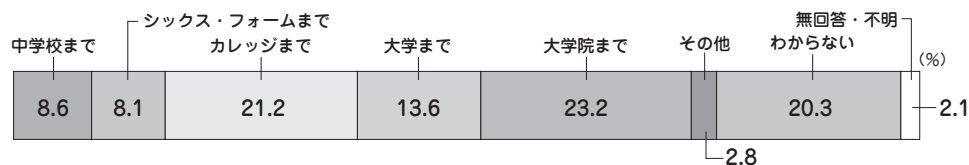


### ヘルシンキ



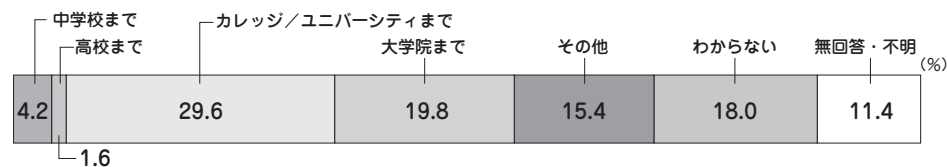
注1) ヘルシンキは複数回答のため、合計が100%になるように、より上級の学校を優先してリコードした。  
 注2) 「大学」は5年制(学士課程3年、修士課程2年)で、一般的に修士号の取得をもって大学卒業とされる。「専門大学」は職業のための専門的な知識・技術の修得を目的とした3~4年制の高等教育機関である。

### ロンドン



注) 「シックス・フォーム (sixth form)」は大学進学を目指すための後期中等教育課程である。「カレッジ」は各種の専門教育を行う「高等教育カレッジ」と、成人教育・職業教育の一環としての「継続教育カレッジ」がある。

### ワシントンDC



注) 「カレッジ/ユニバーシティ」には、さまざまな目的・形態の高等教育機関が含まれる。「大学院」には、医療、法律、ビジネスなどの専門職業人の養成を目的とする大学院が含まれる。「その他」は「その他 (Other)」と「軍 (Military)」の合計を示している。

教育制度には国・都市による違いがあるため、単純な比較は難しい。したがって、ここでの分析は大きな特徴をとらえることにとどめる。特徴的な点は、北京の高学歴志向で、実に65.2%の小学生が「大学院まで」進学したいと回答している。それにつづくのがソウルで、「大学院まで」と答える小学生は30.2%で、「四年制大学まで」と答える32.1%をあわせると6割を超える。これら2都市と比較すると、東京の小学生の高学歴志向は弱く、「四年制大学まで」(18.3%)と「大学院まで」(14.3%)の合計はソウルの約半分程度の比率にとどまる。また、東京では「高校まで」の比率は18.1%で、中等教育段階(ロンドンは「シックス・フォームまで」8.1%を参照)での6都市間比較において一番高くなっている。

欧米3都市では、高等教育に位置づけられている教育機関(ヘルシンキ: 専門大学、大学、大学院、ロンドン: カレッジ、大学、大学院、ワシントンDC: カレッジ/ユニバーシティ、大学院)を希望進学段階とする比率がヘルシンキで48.1%、ロンドンで58.0%、ワシントンDCで49.4%となっている。東京の四年制大学、大学院に加えて「短期大学まで」を含めた高等教育機関を希望進学段階とする合計の比率は39.6%で、欧米3都市との比較においても低い。また東京と欧米3都市では「わからない」と「無回答・不明」を合わせた比率が高い(東京21.6%、ヘルシンキ36.1%、ロンドン22.4%、ワシントンDC29.4%)。全体として他都市との比較において、東京の小学生の高学歴志向が低いことが表れた結果になった(図1-3-12)。

## 7. 将来なりたい職業

東京の小学生のなりたい職業をみると、男子は「スポーツ(野球・サッカー)選手」、女子は「保育士」「デザイナー」などが人気だ。「保育士・幼稚園の先生」「ケーキ屋さん・パティシエ」「トリマー」「花屋さん」などは女子におなじみの人気職業だが、他の都市をみると特有の傾向だとわかる。いずれの都市でも共通して人気の職業は男子「スポーツ選手」や「医師」、女子「芸能人」「デザイナー」「医師」「学校の先生」。都市によっては威信が高い職業に人気が集まる傾向にあったり(北京)、反対にあまり威信と関係なく職業を希望する都市(ヘルシンキ)などさまざまである。

 あなたが将来、つきたい仕事は何ですか。できるだけ具体的に記入してください。

### ■将来なりたい職業の分析

小学生が将来なりたいと思う職業は、人気の職業であったり、社会的地位や威信が高い職業(「社会階層と社会移動調査研究会」によるSSM調査の職業威信スコア1995年版を参照。厳密には各国で職業威信スコアは異なる)であったりと、それぞれの社会を映し出しているといえる。本項では6都市の小学生の将来なりたい職業をみてみたい。

今回の調査では、各都市で「あなたが将来、つきたい仕事は何ですか」とたずねている。これに対する自由回答をみてみると、「宮中料理人(ソウル)」「世界の総司令官」「宋飛のような胡弓演奏者(北京)」「馬のマッサージャー」「シリアラインの操縦士(ヘルシンキ)」「ショウジャンパー(障害飛越)(ロンドン)」「CIA情報員」「ビルゲイツのもとで働く(ワシントンDC)など、その国(都市)独特の職業や珍回答もみられた。その一方で、各都市で共通して人気がある職業もみられる。そこで、これらの回答を職業カテゴリーに分類し、上位から第20位まで並べる作

業を行った。

回答を職業カテゴリーに分類するにあたっては、基本的には国内調査の分析で使った東京の分類基準を用いている。ただし上記のように各都市独特の職業があったり、回答が集まる職業が異なったりするため、統一した分類を行うことは難しい。東京の分類基準にあわない職業に回答が集中した場合には、職業カテゴリーを新たに設け、再度分類する作業を行った。たとえば東京ではほとんどあがらない「軍隊」などは、回答が多い都市もあるため、新たに設けたカテゴリーである。

Benesse教育研究開発センターが行った「第4回学習基本調査・国内調査」の結果によれば、将来なりたい職業は男子と女子の間で大きく異なる。そこで、今回も各都市における男子の回答と女子の回答を分けて集計を行った。また、「なし」やまだ決まっていない(「不明・不確定」という回答、無回答、回答の分類ができなかった子ども(「分類不能」)についても、一定の意味を持つと考え、欄外に記した。

## ■各都市で人気の職業

各都市で共通して子どもに人気のある職業は何だろうか。6都市すべてで第20位以内に入る職業を性別にしてみた。東京以外の都市についても、男子と女子ではなりたい職業の傾向に違いがみられる。男子にとっては、「サッカー選手」「その他のスポーツ選手」「医師」「学校の先生」「他に分類されない専門職」「法律家」が共通して人気の職業のようだ。「サッカー選手」はいずれの都市でも男子にとっての人気職業であり、東京第2位、ソウル第2位、北京第13位、ヘルシンキ第1位、ロンドン第1位、ワシントンDC第5位である。サッカー以外のどんなスポーツ選手になりたいかは、各都市で違いがみられる（たとえば、ヘルシンキは「アイスホッケー選手」、ワシントンDCは「フットボール選手」など）。その他「医師」は東京第4位、ソウル第3位、北京第7位、ヘルシンキ第10位、ロンドン第

3位、ワシントンDC第4位と各都市共通で上位にあがる人気の職業だ。

女子では、「芸能人」「デザイナー」「医師」「学校の先生」「作家・小説家」がいずれの都市でも第20位以内に入る人気の職業である。「学校の先生」は東京第8位、ソウル第1位、北京第1位、ヘルシンキ第2位、ロンドン第2位、ワシントンDC第2位と東京ではやや人気は低めであるが、その他の都市では第2位以内に入るなど、非常に人気が高い。毎日接する身近な職業であることや小学校の先生に女性が多いこと、威信が高い職業であることも影響しているのかもしれない。その他、「芸能人」は東京第3位、ソウル第1位、北京第4位、ヘルシンキ第1位、ロンドン第3位、ワシントンDC第3位とすべての都市で第5位以内に入る。「デザイナー」の人気も高いことから、女子のおしゃれへの関心は各都市で共通のようだ。



## ■将来なりたい職業 —各都市の特徴—

表 1-3-1 将来なりたい職業（東京）

		(%)		
男子		女子		
1	野球選手	14.6 (83)	1 保育士・幼稚園の先生	6.2 (33)
2	サッカー選手	11.8 (67)	1 ファッションデザイナー・デザイナー	6.2 (33)
3	研究者・大学教員	4.4 (25)	3 芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	5.1 (27)
4	医師	4.1 (23)	4 ケーキ屋さん・パティシエ	4.9 (26)
5	サラリーマン	3.9 (22)	5 医師	4.1 (22)
5	その他の職業領域（職種不明）	3.9 (22)	6 その他の職業領域（職種不明）	3.6 (19)
7	その他のスポーツ選手	2.1 (12)	7 音楽家（ピアニスト・バイオリニスト）	3.4 (18)
8	他に分類されない専門職	1.9 (11)	8 学校の先生	3.2 (17)
8	飲食店主・店員（接客）	1.9 (11)	9 美容師・理容師	2.8 (15)
10	調理師・コック	1.8 (10)	10 スポーツトレーナー・インストラクター	2.4 (13)
11	作家・小説家	1.4 ( 8)	10 マンガ家・イラストレーター	2.4 (13)
11	バスケット選手	1.4 ( 8)	10 看護師	2.4 (13)
13	獣医師	1.2 ( 7)	13 獣医師	2.3 (12)
13	芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	1.2 ( 7)	13 動物の訓練士・動物園などの飼育員	2.3 (12)
13	その他販売店	1.2 ( 7)	13 ダンサー	2.3 (12)
16	学校の先生	1.1 ( 6)	16 作家・小説家	1.9 (10)
16	法律家（弁護士・裁判官・検察官）	1.1 ( 6)	16 トリマー	1.9 (10)
16	美術家（画家・カメラマン）	1.1 ( 6)	16 花屋さん	1.9 (10)
16	音楽家（ピアニスト・バイオリニスト）	1.1 ( 6)	19 薬剤師	1.7 ( 9)
16	スポーツトレーナー・インストラクター	1.1 ( 6)	19 その他の教育職	1.7 ( 9)
16	スポーツ関係（職種不明）	1.1 ( 6)	19 フライトアテンダント	1.7 ( 9)
16	パイロット	1.1 ( 6)		
	無記入（空欄）	12.3 (70)	無記入（空欄）	7.7 (41)
	未定	3.9 (22)	未定	3.4 (18)
	なし	1.9 (11)		

注) ( ) 内は回答実数。

まずは東京の小学生の将来なりたい職業をみてみよう（表 1-3-1）。男子のなりたい職業では「スポーツ選手」が最上位にあがる都市が多いが（ソウル、北京以外）、東京の場合、「野球選手」と「サッカー選手」が多い。それに、職業威信の高い「研究者・大学教員」「医師」が続く。男子では東京のみである職業は、「飲食店主・店員」「作家・小説家」「音楽家」などである。反対に東京のみで人気が高くない職業は「警察官」である。他の都市では第10位以内にあがるものの、東京では第20位までに入らない。また、「野球選手」「サッカー選手」以外にも、スポーツに関する職業が第20位までに6種類もあがる

ことは東京の男子の特徴といえる。

さらに、女子のなりたい職業は、「保育士・幼稚園の先生」「ファッションデザイナー・デザイナー」「芸能人」「ケーキ屋さん・パティシエ」といった子どもにとって身近であこがれる存在（幼稚園、テレビ）、自分が好きなもの（おしゃれ、甘いもの）に関係する職業が並ぶ。「保育士・幼稚園の先生」「ケーキ屋さん・パティシエ」「トリマー」「花屋さん」などは小学生くらいの女子のなりたい職業としてはおなじみの職業であるが、6都市を並べてみると第20位以内に入らない都市も多く、実は東京の女子に独特の傾向といえそう

表1-3-2 将来なりたい職業（ソウル）

(%)

男子		女子	
1	研究者・大学教員 15.9 (105)	1	学校の先生 17.0 (107)
2	サッカー選手 12.0 ( 79)	1	芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど) 17.0 (107)
3	医師 10.3 ( 68)	3	医師 10.6 ( 67)
4	法律家(弁護士・裁判官・検察官) 9.8 ( 65)	4	ファッションデザイナー・デザイナー 7.6 ( 48)
5	警察官 4.7 ( 31)	5	調理師・コック 4.8 ( 30)
6	芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど) 4.5 ( 30)	6	音楽家(ピアニスト・バイオリニスト) 4.6 ( 29)
7	ゲームクリエイター・ゲームプログラマー 3.3 ( 22)	7	アナウンサー 3.8 ( 24)
8	学校の先生 3.2 ( 21)	8	研究者・大学教員 3.5 ( 22)
9	その他のスポーツ選手 3.0 ( 20)	9	美術家(画家・カメラマン) 3.2 ( 20)
10	会社社長 2.7 ( 18)	10	語学関係・国際関係 2.7 ( 17)
11	野球選手 2.1 ( 14)	11	法律家(弁護士・裁判官・検察官) 2.5 ( 16)
12	サラリーマン 1.8 ( 12)	11	保育士・幼稚園の先生 2.5 ( 16)
13	調理師・コック 1.5 ( 10)	13	警察官 1.7 ( 11)
14	軍隊 1.4 ( 9)	14	マンガ家・イラストレーター 1.3 ( 8)
15	他に分類されない専門職 1.2 ( 8)	15	獣医師 1.1 ( 7)
15	語学関係・国際関係 1.2 ( 8)	15	作家・小説家 1.1 ( 7)
17	議会議員 1.1 ( 7)	15	ダンサー 1.1 ( 7)
17	発明家 1.1 ( 7)	15	パン屋さん 1.1 ( 7)
19	消防士(レスキュー・救急救命士) 0.9 ( 6)	19	美容師・理容師 1.0 ( 6)
19	パイロット 0.9 ( 6)	20	その他のスポーツ選手 0.6 ( 4)
		20	議会議員 0.6 ( 4)
		20	動物の訓練士・動物園などの飼育員 0.6 ( 4)
		20	薬剤師 0.6 ( 4)
		20	その他の教育職 0.6 ( 4)
		20	インテリアコーディネータ 0.6 ( 4)
		20	フライトアテンダント 0.6 ( 4)
	無記入(空欄) 5.6 ( 37)		無記入(空欄) 1.6 ( 10)
	不明・不確定 1.5 ( 10)		

注) ( ) 内は回答実数。

次に、ソウルの小学生の将来なりたい職業をみてみよう(表1-3-2)。男子の上位にあがるのは、「研究者・大学教員」「サッカー選手」「医師」「法律家」「警察官」である。同国のサッカー人気を反映してか、「サッカー選手」が上位にあがる。だが、それを引き離して一番人気が高いのが「研究者・大学教員」という点は、北京とソウルに共通している。

女子の回答で上位にあがるのは、「学校の

先生」「芸能人」「医師」「ファッションデザイナー・デザイナー」「調理師・コック」である。「調理師・コック」の回答が上位に入るのはソウルの女子の1つの特徴といえる。また、「アナウンサー」(第7位)や「語学関係・国際関係」(第10位)、「パン屋さん」(第15位)、「議会議員」「インテリアコーディネータ」(第20位)は女子ではソウルのみ第20位以内に入る職業だ。

表1-3-3 将来なりたい職業（北京）

（%）

男子		女子	
1 研究者・大学教員	13.8 (86)	1 学校の先生	18.4 (104)
2 会社社長	11.1 (69)	2 医師	10.8 (61)
3 警察官	8.8 (55)	3 研究者・大学教員	8.1 (46)
4 その他の職業領域（職種不明）	4.2 (26)	4 芸能人（歌手・声優・お笑いタレントなど）	7.8 (44)
5 学校の先生	3.7 (23)	5 ファッションデザイナー・デザイナー	6.5 (37)
6 その他のスポーツ選手	3.5 (22)	6 会社社長	4.4 (25)
7 医師	3.4 (21)	7 警察官	4.1 (23)
8 コンピュータープログラマー・システムエンジニア	3.2 (20)	7 法律家（弁護士・裁判官・検察官）	4.1 (23)
8 軍隊	3.2 (20)	9 サラリーマン	3.5 (20)
10 サラリーマン	3.0 (19)	10 その他の職業領域（職種不明）	3.0 (17)
11 議会議員	2.2 (14)	11 美術家（画家・カメラマン）	2.7 (15)
12 お金関係	2.1 (13)	12 音楽家（ピアニスト・バイオリニスト）	1.9 (11)
13 その他管理職	1.9 (12)	13 作家・小説家	1.8 (10)
13 サッカー選手	1.9 (12)	14 その他の芸能関係職	1.1 (6)
15 宇宙飛行士	1.8 (11)	14 記者・編集者・ジャーナリスト	1.1 (6)
16 法律家（弁護士・裁判官・検察官）	1.6 (10)	14 看護師	1.1 (6)
16 技術者・エンジニア・整備士	1.6 (10)	14 フライトアテンダント	1.1 (6)
16 他に分類されない専門職	1.6 (10)	18 お金関係	0.9 (5)
16 パイロット	1.6 (10)	18 技術者・エンジニア・整備士	0.9 (5)
20 その他販売店	1.4 (9)	18 その他販売店	0.9 (5)
		18 通訳・翻訳	0.9 (5)
無記入（空欄）	4.3 (27)	無記入（空欄）	2.5 (14)
分類不能	1.9 (12)	不明・不確定	1.8 (10)
不明・不確定	1.6 (10)	分類不能	0.9 (5)

注）（ ）内は回答実数。

北京の小学生の将来なりたい職業はどうか（表1-3-3）。男子の将来なりたい職業をみると、「研究者・大学教員」「会社社長」「警察官」「学校の先生」などが並ぶ。上位第5位までは威信が高い職業が占めるのは北京の特徴だ。反対に「芸能人」のようなあまり威信が高くないと考えられるような職業は第20位にも入らない。ソウルと同様にスポーツ選手が男子のトップにならず、第6位でようやくバドミントンや陸上競技の選手など、「その他のスポーツ選手」があがる。「その他の職業領域（職種不明）」では、「たくさんお金が稼げる仕事」「高収入で楽な仕事」など条件や収入に関する記述が目立った。他に

は「国や社会に役立つ人」など社会貢献を目指す記述も多かった。

女子の回答をみると、5人に1人くらいが「学校の先生」になりたいという。つづいて「医師」「研究者・大学教員」など女子でも第3位までは男子と同様に威信が高い職業が並ぶ。第20位以内に入る職業をみると、「獣医師」や「動物の訓練士・動物園などの飼育員」など動物関係の仕事が第20位までに1つもあがらないことは、最近までペットの飼育があまり一般的ではなかった影響だろうか。さらに、女子も第6位に「会社社長」が入るなど小学生のころから起業やトップを目指す意識が強いことは北京の特徴である。

表1-3-4 将来なりたい職業（ヘルシンキ）

（%）

男子		女子	
1 サッカー選手	7.4 (20)	1 芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	7.5 (19)
2 警察官	6.6 (18)	2 学校の先生	7.1 (18)
3 アイスホッケー選手	5.1 (14)	3 動物の訓練士・動物園などの飼育員	6.7 (17)
4 その他の職業領域（職種不明）	4.4 (12)	4 その他販売店	5.5 (14)
5 芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	2.9 ( 8)	4 獣医師	5.5 (14)
6 その他のスポーツ選手	2.6 ( 7)	6 美容師・理容師	5.1 (13)
6 その他販売店	2.6 ( 7)	7 その他の職業領域（職種不明）	4.3 (11)
8 建築家・設計士	2.2 ( 6)	8 医師	3.6 ( 9)
8 会社社長	2.2 ( 6)	9 スポーツトレーナー・インストラクター	2.8 ( 7)
10 医師	1.8 ( 5)	10 その他のスポーツ選手	2.0 ( 5)
10 法律家（弁護士・裁判官・検察官）	1.8 ( 5)	10 建築家・設計士	2.0 ( 5)
10 お金関係	1.8 ( 5)	12 サッカー選手	1.6 ( 4)
13 他に分類されない専門職	1.5 ( 4)	12 ファッションデザイナー・デザイナー	1.6 ( 4)
13 消防士（レスキュー・救急救命士）	1.5 ( 4)	12 作家・小説家	1.6 ( 4)
13 パイロット	1.5 ( 4)	15 調理師・コック	1.2 ( 3)
13 車の整備士・カーデザイナー	1.5 ( 4)	15 看護師	1.2 ( 3)
17 学校の先生	1.1 ( 3)	15 ダンサー	1.2 ( 3)
17 ゲームクリエイター・ゲームプログラマー	1.1 ( 3)	18 警察官	0.8 ( 2)
17 その他の芸能関係職	1.1 ( 3)	18 法律家（弁護士・裁判官・検察官）	0.8 ( 2)
17 その他の建築技術者	1.1 ( 3)	18 お金関係	0.8 ( 2)
17 その他の運搬	1.1 ( 3)	18 他に分類されない専門職	0.8 ( 2)
17 大工	1.1 ( 3)	18 コンピュータープログラマー・システムエンジニア	0.8 ( 2)
無記入（空欄）	16.9 (46)	18 音楽家（ピアニスト・バイオリニスト）	0.8 ( 2)
なし	11.8 (32)	18 その他の保健医療技術者	0.8 ( 2)
未定	3.3 ( 9)	18 保育士・幼稚園の先生	0.8 ( 2)
		無記入（空欄）	13.4 (34)
		なし	7.9 (20)
		未定	3.6 ( 9)

注) ( ) 内は回答実数。

ヘルシンキの小学生の将来なりたい職業をみてみよう（表1-3-4）。まず、男子も女子も「無記入（空欄）」や「なし」といった回答が全体の2～3割を占めている。なりたい職業がはっきりと決まっていないのか、このように回答することに不慣れなためか、いずれにしてもヘルシンキの1つの特徴だ。男子は「サッカー選手」が多く、次に「警察官」「アイスホッケー選手」が続く。スポーツ選手が上位であることは他の都市と同様だが、「医師」や「法律家」はかろうじて第10位、「研究者・大学教員」は第20位までに入らない。

威信が高いといわれる職業に人気が集中せず、回答が比較的分散する点はヘルシンキの特徴といえそうだ。

女子は「芸能人」「学校の先生」「動物の訓練士・動物園などの飼育員」「獣医師」が上位にあがるほか、「その他販売店」なども多い。「スポーツトレーナー・インストラクター」「その他のスポーツ選手」「サッカー選手」など、女子でもスポーツ関係が多いのはヘルシンキ、ロンドン、ワシントンDCのみの傾向といえそうだ。また、女子で「建築家・設計士」が第10位に入っている。



表1-3-6 将来なりたい職業（ワシントンDC）

		(%)		
男子		女子		
1	フットボール選手	16.3 (81)	1 医師	15.5 (70)
2	軍隊	9.7 (48)	2 学校の先生	15.0 (68)
3	バスケット選手	9.5 (47)	3 芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	8.8 (40)
4	医師	5.0 (25)	3 獣医師	8.8 (40)
5	サッカー選手	4.2 (21)	5 法律家(弁護士・裁判官・検察官)	4.4 (20)
6	警察官	3.8 (19)	6 ファッションデザイナー・デザイナー	3.8 (17)
7	研究者・大学教員	3.2 (16)	7 ダンサー	3.3 (15)
8	他に分類されない専門職	3.0 (15)	8 研究者・大学教員	3.1 (14)
8	その他のスポーツ選手	3.0 (15)	9 美術家(画家・カメラマン)	2.0 (9)
10	ゲームクリエイター・ゲームプログラマー	2.6 (13)	9 看護師	2.0 (9)
11	野球選手	2.4 (12)	11 他に分類されない専門職	1.8 (8)
12	技術者・エンジニア・整備士	2.2 (11)	12 作家・小説家	1.5 (7)
13	建築家・設計士	2.0 (10)	13 スポーツトレーナー・インストラクター	1.3 (6)
13	サラリーマン	2.0 (10)	14 軍隊	1.1 (5)
15	芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	1.8 (9)	14 サッカー選手	1.1 (5)
16	獣医師	1.4 (7)	14 警察官	1.1 (5)
16	調理師・コック	1.4 (7)	14 調理師・コック	1.1 (5)
18	学校の先生	1.2 (6)	14 音楽家(ピアニスト・バイオリニスト)	1.1 (5)
18	法律家(弁護士・裁判官・検察官)	1.2 (6)	19 バスケット選手	0.9 (4)
18	美術家(画家・カメラマン)	1.2 (6)	19 その他のスポーツ選手	0.9 (4)
18	宇宙飛行士	1.2 (6)	19 サラリーマン	0.9 (4)
なし	5.8 (29)	なし	4.9 (22)	
無記入(空欄)	5.8 (29)	無記入(空欄)	3.1 (14)	
不明・不確定	1.4 (7)	分類不能	1.3 (6)	
		不明・不確定	1.1 (5)	

注) ( ) 内は回答実数。

最後にワシントンDCをみてみよう(表1-3-6)。男子のなりたい職業は、「フットボール選手」である。「バスケット選手」も第3位に入る。アメリカ合衆国はNFL、NBAなどのスポーツリーグが国民的な関心事である。リーグで活躍する有名な選手がいるなかで、そのような選手を身近に感じ、あこがれる小学生が多いのだろう。「軍隊」を志望する小学生が多いのは、ワシントンDCの男子のもう1つの特徴といえる。「他に分類されない専門職」は「クロコダイルハンター」「オフ

ロードバイクライダー」などであった。

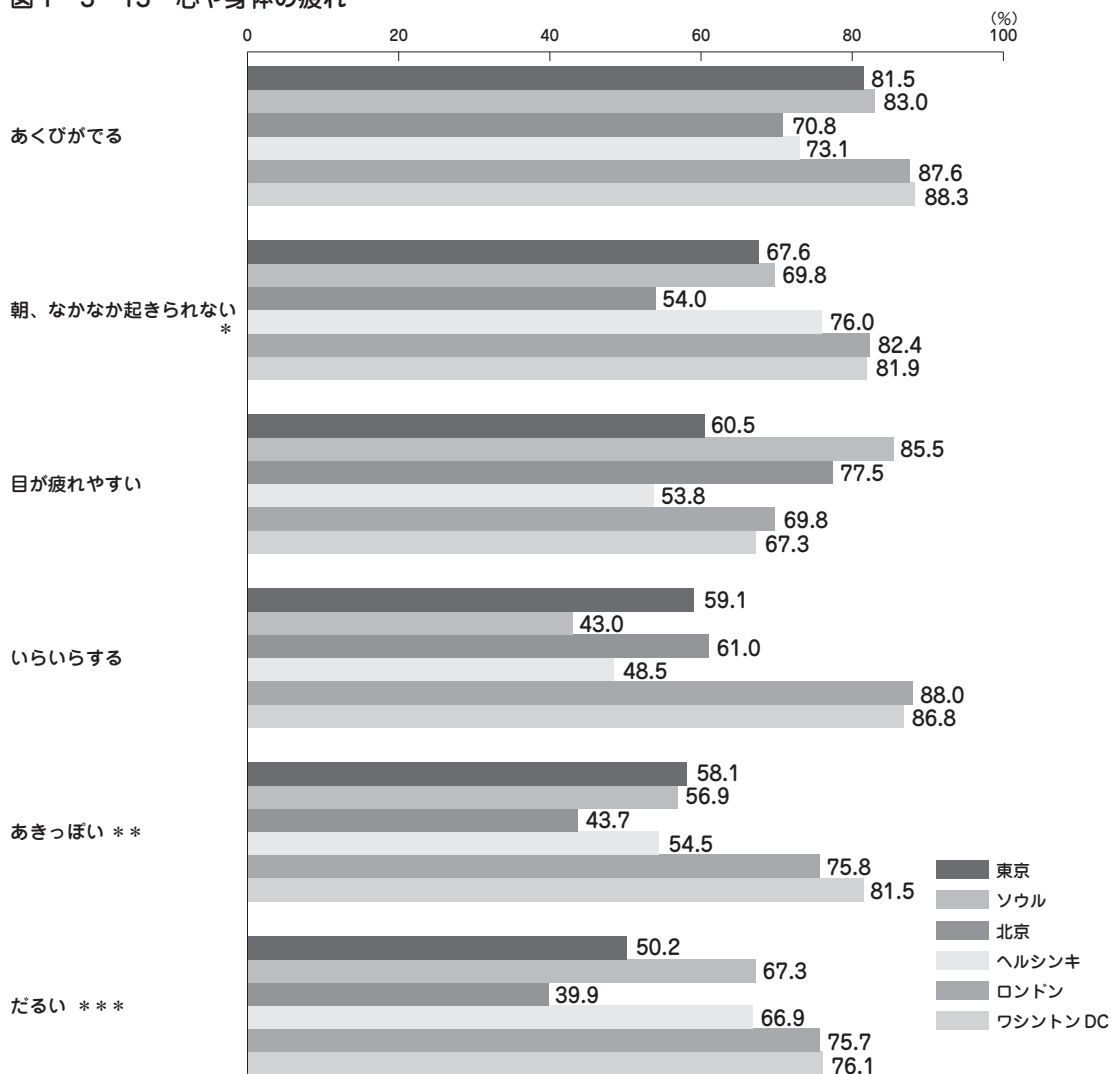
女子はどうだろうか。ロンドンと同様に第1位は「医師」、第2位は「学校の先生」、第3位は「芸能人」である。女子でも、スポーツ選手(サッカー、バスケット、その他)や「スポーツトレーナー・インストラクター」になりたい小学生が多いのは欧米3都市の特徴といえそうである。「軍隊」が第14位にあがるが、女子ではワシントンDCのみ第20位以内に入る職業で特徴的といえる。

## 8. 心や身体の疲れ

心や身体の疲れについては、肯定率が4～9割弱におよび、項目や都市によって差はあるが、小学生の心や身体が疲れている様子がうかがえる。

**Q** あなたはふだん、自分のからだについて、次のように感じることはありませんか。

図1-3-13 心や身体の疲れ



注1) 数値は「とてもそう」と「少しそう」の合計。

注2) ソウルは、\*「朝起きるのがしんどい」。\*\*「すぐに嫌になる」。\*\*\*「元気がでない」。

心と身体の疲労感を6項目で調べた。「目が疲れやすい」については、ソウルの肯定率（「とてもそう」＋「少しそう」の％、以下同）は85.5%ともっとも高い。北京はソウルに続き、77.5%となっている。この結果は第2節

で述べたソウルと北京の小学生の学習時間の長さ（p. 30～31）と関連があると考えられる。他の5項目は、ロンドンとワシントンDCで肯定率が7～9割弱で、他の都市と比べて高い数値となっている（図1-3-13）。